教科等や分野名：特別支援教育

（発表題目）**職員協働で担任を支えるコンサルテーション**
～特別支援学校のセンター的機能からつなぐ校内連携～

小千谷市立総合支援学校
氏名　佐藤　静（平成２０年度）

本実践では、コンサルタントが職員同士をつなぎ、個々の困り感を校内で共有・検討できる課題へと整理することで、職員協働が促され、組織による主体的な問題解決につながるのではないかと考えた。

小学校からの依頼により、読み書きにつまずきのある児童への支援において、保護者面談への同席やアセスメントを通して子どもの実態を把握し、関係者間で支援方針を検討した。その後、担任と通級担当者の間で、通級指導中に抜けた授業の補充指導をめぐって認識の相違が生じた際には、継続的な相談や連絡を通して担任の困り感を整理し、コーディネーターを通して校内支援会議で具体的な対応を検討するよう働きかけた。その結果、校内支援会議が開催され、補充指導の方法や役割分担が明確になり、職員間で互いに相談し合える関係が形成された。また、子どもの学習意欲や支援を受け入れる姿勢にも変化が見られた。

本実践から、子どもの実態を把握するアセスメントに加え、関係者の思いや困り感を整理し、協働して解決策を考えられるよう働きかけるファシリテーション、コンサルティの心理的支援を含め、一緒に考えながら継続的に支えるフォローアップが重要であると考えられた。さらに、コンサルタント自身が管理職への報告・相談や職員間の事例検討等を通して自らの関わり方を振り返り、課題を整理して次の実践につなげることも、コンサルテーション力の向上につながると考えられる。